

10月2日(土)・大会2日目 11:00~12:20 (A会場:1001) (80分)

●セッション【12】

「組織研究における心理学の可能性」

池田浩(九州大学大学院人間環境学研究院准教授)

関口倫紀氏(京都大学経営管理大学院教授)

*坂爪洋美(法政大学キャリアデザイン学部教授)

*セッション・リーダー

[概要]

本セッションでは、心理学をバックボーンに経営組織の様々な人間行動について研究を進めるという意味では同じカテゴリーに属する、けれども向いている方向やアイデンティティが少しずつ異なる3名で、「組織研究における心理学の可能性」について議論します。まず池田先生から「組織研究の発展に向けた心理学の役割」というタイトルでご報告いただきます。次に、関口先生から「日本のサンプルを用いた実証研究の海外ジャーナルへの投稿」というタイトルでご報告をいただきます。最後にセッション・リーダー兼司会の坂爪より「組織・労務研究における心理学的アプローチの広がり」というタイトルでご報告をいたします。最後に、フロアの参加者も含めてそれぞれのご報告についての質疑とディスカッションを行う予定です。

[参加者へのメッセージ]

「働く人」に焦点を当てた研究、心理学ならいにその隣接領域をバックボーンとする研究が増えていきます。心理学の強みは何か、逆に何が不得意なのか、今後何に注力していくことができるのか、心理学の中に存在するグラデーションを意識しながら、組織研究における心理学の可能性についてあれこれ議論してみたいと考えています。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。